セッション５　その他

24. 透析時のリハビリテーション導入について

○歌川　　静（ｳﾀｶﾞﾜｼｽﾞｶ）[1)]、菊地　　武[1)]、柿沼　　浩[1)]、大石　　竜[2)]
昭和大学横浜市北部病院　臨床工学室[1)]、昭和大学病院　統括臨床工学室[2)]

【目的】腎臓リハビリテーションのひとつである運動療法が体力向上、転倒予防、身体活動量が増加すると報告がある。そこで、患者の ADL の向上と活動量増加に取り組んだ結果を報告する。

【方法】対象は、外来維持透析患者 11 名、年齢 71.5 ± 18.6 歳、透析年数 15.7 ± 8.0 年。透析施行中に一連の運動療法を行った。評価項目は生活状況アンケート、身体機能評価として握力測定、開眼片足立ち、TUG（Timed Up & Go test）、6 分間歩行試験とした。また、身体評価は、大腿・下腿周囲径とし、運動療法導入時から半年毎に実施した。

【結果】開眼片足立ち・TUG に改善傾向がみられたが、その他項目に変化はなかった。また、転倒等のイベントがあり 4 名の離脱患者もいた。しかし、アンケートでは透析後の倦怠感や血圧低下の回数が減った等の回答があった。

【考察】現時点では、ADL の維持や疲労感の軽減に寄与していることが予測された。開眼片足立ち、TUG の改善傾向は平衡性の向上と捉えられ、継続することで転倒予防に繋がると考えられた。

【結語】透析時のリハビリテーションは、ADL の維持、患者の意識変化に繋がる可能性がある。